令和６年度教員による学校評価　評価法(達成度):5段階方式　A:十分達成(100%)　B:概ね達成(80%程度)　C:変化の兆し(50%前後)　D:まだ不十分(30%前後)　E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
教務部	**努力目標** 地域社会から信頼される魅力ある学校づくりを推進する。 **目標設定の理由** さまざまな活動を通じて積極的な情報提供を行い、保護者・地域との連携を深めながら、学校の認知度・理解度アップを目指し、信頼される学校づくりに努力する。	①保護者・中学校・近隣の学校等との連携強化をはかり、学校のさらなる認知度アップをはかる。	①ホームページ・学校案内・学校要覧・学校説明会・中学校訪問・ボランティア等を通して認知度をアップできたか。	ホームページの更新、工夫ができた。中学校訪問では、小山地区の中学校の代わりに、本校とあまり縁のない中学校への訪問を試みた。	B	中学校からの学校説明会の依頼が少なかった。中学校に働きかけ、説明会の機会を増やしたい。
		②危機管理意識を高く持ち、事故防止に努め、安全に配慮した学校運営を推進する。	②危機管理意識を高く持ち、安全に配慮した行事計画・行事の実施等ができたか。	大きな事故なく行事等が実施できた。		来年度も安全に配慮した行事計画を行いたい。
		③生徒・保護者が入学を望む学校にする。	③入学してよかったと思う生徒・保護者が増えたか。（学校評価、学校アンケート等）	アンケートの結果は、生徒76.9(前年度82.7)保護者78.1(83.2）であった。前年度より満足度が低い結果となった。		各部、各教科で学校の魅力化をアップできるよう工夫する。
渉外部	**努力目標** 教育目標・学則に基づき、校内外の諸機関・諸団体との連携をとり、学校運営を円滑にするとともに、本校の発展に寄与する。 **目標設定の理由** さまざまな活動を通じて積極的な情報提供を行い、保護者・地域との連携を深めながら、学校の認知度・理解度アップを目指す。	①学校と家庭とのスムーズな協力関係の構築に努め、PTA活動の発展に寄与する。	①PTA活動に参加しやすい環境作りや、保護者等と連携を図り、よりよいPTA行事の企画・運営を行うことで、保護者等のPTA活動への参加を促すことができたか。	今年度新たな取り組みとして、体育祭でのスポーツドリンク配布や軽食販売をPTAで企画・実施し、PTA活動のより一層の充実を図ることができた。	B	PTA研修会は大学見学を計画したが、定員に満たず、中止となった。行先や時期等も含めて、PTA研修会の内容の見直しを検討する必要がある。
		②円滑な同窓会活動の企画・運営を行う。	②在校生や同窓生に対して同窓会活動について周知し、同窓会活動への参加を促す活動をすることができたか。	同窓会賞への名称変更や総会開催の在り方などを再考し、同窓会活動の周知や参加を促すことができた。		引き続き、在校生や同窓生に対して、同窓会活動の周知や参加への呼びかけを行う。
		③校内外の諸機関・諸団体と連携し、地域社会から信頼される学校作りの一端を担う。	③地域や家庭に対して、学校の理解促進や魅力等につながるようなアピールを行うことができたか。	PTA活動の記録写真を撮影し、学校HPに掲載するなどして本校の理解や魅力につながるようなアピールを行った。		より充実したPTA活動を実施するとともに、学校HPなどを利用して継続的にアピールを行っていく。

令和６年度教員による学校評価　評価法(達成度):5段階方式　A:十分達成(100%)　B:概ね達成(80%程度)　C:変化の兆し(50%前後)　D:まだ不十分(30%前後)　E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
進路指導部	**努力目標** 広い視野に立った進路目標の設定とその実現に向けた進路指導の実践により社会的・職業的自立を促す。 **目標設定の理由** 多様な進路に柔軟に対応できる進路指導体制の構築及び実践により、生徒が社会で自立できるようにするため。	①3年間を見通した進路指導と、生徒の社会的・職業的自立を目指し、校内に加えて校外と協力したキャリア指導の実践。	①それぞれの生徒が社会における自分の役割を意識した進路研究・進路選択を進めることができたか。	各学年の実情に応じて進路ガイダンス等の内容を柔軟に対応し、生徒が具体的なキャリアビジョンを描けるよう支援した。	**B**	各学年の実情に応じた進路ガイダンスをさらに深化させ、社会の動向や多様な職業観を反映した最新情報を提供する。
		②全教員参画による個に応じた進路指導の実践。	②受験シーズンのみならず、進路学習・進路研究において、協力体制のもと、進路指導を実践できたか。	教員が連携しながら進路ガイダンスや個別相談を行い、生徒一人ひとりの目標達成を支援した。		教員間の連携体制をさらに強化するため、定期的なミーティングや事例共有の場を増やし、情報交換をスムーズに行える仕組みを確立する。
		③校内外のデータベースや受験ツールの有効活用による進路指導の実践。	③校内外のデータベースおよび受験ツールなどの資源も活用して，より効果的な進路指導を実施できたか。	模試結果や進路データベースを活用し、生徒や保護者が進路選択に必要な情報を迅速に得られる環境を整備した。		模試結果や進路データベースの活用をさらに進め、生徒が自己分析を深められるよう、模試結果に基づく個別のフィードバックを強化する。
学習指導部	**努力目標** 進路実現に向けた学習環境の整備と充実を学校全体で 図る。 **目標設定の理由** 進学・就職に対応できる学習環境を組織的に整備・充実させ、生徒一人ひとりの能力を伸ばす。	①朝読・朝学の時間を確保し、一日の始まりをしっかりと意識させる。	①朝読朝学が学校全体で粛然と実行され、一日の始まりが習慣づいたか。	大多数のクラスで朝読朝学が粛々と実行できていた。	**B**	正副担任で連携し、朝読開始及び遅刻者の有無の確認は副担任が行うことも一計かと思われる。
		②授業を中心に、日々の学習活動全般が恙なく進行できるよう環境を整える。	②指導者が生徒の模範となり、生徒が安心して学習を続けられる環境を整え、日々の学習活動全般が実り多いものとできていたか。	生徒の授業評価アンケートからも本校生の授業満足度は概ね高いと読み取れる。指導者が授業に真摯に取り組んでいる証しであると思われる。		授業第一主義という前提を崩さず、学習環境を整え、毅然として学習指導を続けていきたい。
		③生徒の向上が見られるような学習活動の支援を続ける。	③生徒の成長や行動に多少の向上心が読み取れるようになったか。	ICT活用が定着し、生徒も教員もTeamsに慣れてきたと思われる。		引き続き、デジタルとアナログの特性を生かしつつ、デジタルを上手に活用して生徒の学力向上につなげていきたい。

令和６年度教員による学校評価　評価法(達成度):5段階方式　A:十分達成(100%)　B:概ね達成(80%程度)　C:変化の兆し(50%前後)　D:まだ不十分(30%前後)　E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
生徒指導部	**努力目標** 未然防止、早期発見・早期対応、適切な対応に努め、危機管理意識を高める。 **目標設定の理由** 生徒指導に係る諸問題は、生徒の生命を脅かす問題に発展する可能性がある。そのことを理解し、日頃の姿勢（未然防止・早期発見）、重大な問題に発展させない（適切な対応）が必要である。	①いじめを許さない環境と生徒・保護者との信頼関係の構築。	① ・積極的な認知といじめ解消率が増加したか。 ・適切な対応が図れたか。 ・情報の共有と研修会等が行うことができたか。	・12月時点での県への報告数いじめの認知件数１３件、重大事態１件 ・全学年部会で、いじめについての情報提供を参加保護者に実施。教職員に対しての研修会は未実施。	**B**	○レスキュー調査は紙ベース、いじめアンケートはデータベースでの調査、管理を行う。 ○全教職員が「いじめ情報共有シート」に入力できるように、周知徹底する。
		②交通事故防止と交通ルール、マナーの向上。	② ・交通事故の減少ができたか。 ・自転車安全利用五則を守り、苦情等が減ったか。 ・駐輪マナーの向上（校内・校外）が図れたか。	・事故報告：被害４件、自損事故４件（昨年度：被害４件、自損事故１件） ・苦情は例年と同程度 ・来賓駐輪場に駐輪する生徒は減少した。（カラーコーン設置）		○交通委員や生徒会とも協力して、交通指導や啓発活動等を行う。
		③挨拶を中心とした、礼儀とマナーの向上、規則の遵守等の基本的生活習慣の確立。	③積極的な挨拶をする生徒が増え、頭髪指導等の生活指導が減ったか。	・頭髪の再指導を実施する生徒は、毎回各学年２～４名程度いるが、基本的に１回の指導で済むようになった。		○染色加工をした場合の学校側の対応を、生徒へ事前周知する。
		④教育相談体制の充実。	④ ・クラス、学年と情報交換会の連携を深めることができたか。 ・情報交換会からケース会議等の教育相談活動に活かすことができたか。 ・専門機関との連携を図り、生徒へ適切な対応ができたか。	・短時間での効果的な情報交換が実施できた。 ・情報交換の内容から、保護者も含め、SCや警察（あしたルーム）等の関係機関に繋げることができた。		○日常から管理職を含めた、密な情報交換が実施されているため、必要に応じて時間短縮や回数の減少を行っていく。

令和６年度教員による学校評価　評価法(達成度):5段階方式　A:十分達成(100%)　B:概ね達成(80%程度)　C:変化の兆し(50%前後)　D:まだ不十分(30%前後)　E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
保健安全部	**努力目標** 基本的な生活習慣の確立、日常生活における危険予測回避し、適切な対応に努め、危機管理意識を高める。校内美化活動を推進する。 **目標設定の理由** あらゆる教育活動の中で、生徒の生命を脅かす問題に発展する可能性がある。そのことを理解し、日頃から未然防止・早期発見、重大な問題に発展させない、適切な対応が必要である。	①基本的な生活習慣の確立。	①生徒の実態に合わせた保健指導を行い、生活習慣の改善が見られたか。	性教育講演会などを通して、身近に性に関する問題を意識させることで、よりよい生活を送るために必要な判断力を養うことができた。	B	感染症により多くの欠席者が出てしまう前に、日ごろから免疫力を付ける工夫などを事前に指導する必要がある。
		②災害、危機等発生時だけでなく、日常生活における危険を予測し回避する判断力・対応力を身につけさせる。	②周りの状況に応じて主体的に判断し、行動や対応することができたか。	避難訓練を通して、災害時に限らず身近に潜む危機を回避するための意識を身に付けることができた。		危機管理意識は生徒指導上も必要ないしきであるため、多くの機会でその意識を高めるための活動を実施していく。
		③美化活動を推進する。	③主体的に校内美化に取り組ませることができたか。	放送委員会との連携もあり、清掃活動時間の確保ができた。音楽を聴きながら前向きに清掃活動に向かうことができた。		主体的に清掃活動が行える声かけを。全職員で実施してく。
特別活動部	**努力目標** 集団の一員として自主的・積極的に規律を守り、責任を重んじ、相互に協力し合う態度を育成し、自治能力の向上を図る。 **目標設定の理由** さまざまな活動を通して、集団の一員としての自覚と、適切な行動をとろうとする姿勢の育成に努める。	①生徒による自主的な活動の尊重 ※学校経営方針　３－（１）ウ「「逆境や困難に打ち勝つ力・心の回復力（レジリエンス）を身につけさせる」	①生徒会主催の諸活動・学校行事について、生徒自身の主体的な活動によって様々なことにチャレンジし、粘り強く前に進む力や他者と協働し、新しい価値を創る力を身につけさせるような指導体制をつくることができたか。	体育祭に生徒立案企画を盛り込んだり、会場装飾を生徒会本部が担当するなど生徒の自発的な取り組みが見られた他、3年生の壮行会としての文化的行事が発案されるなど、生徒が主体的・自発的に取り組む機会が見られた。	B	生徒が失敗をしないように、教員が関り過ぎてしまう部分や、学校の内外に活動を周知することが出来ていない。実践が属人的なものにならないように、年間計画と担当教員と生徒との役割分担を明確にすることが必要かと思う。
		②部活動・委員会活動の充実 ※学校経営方針　３－（４）イ「生徒が「小山南高校に入学して良かった」、保護者が「小山南高校に入って良かった」と思える学校づくり」	②部活動の活動実績や委員会の活動の充実から、生徒の成長の機会となる教育活動を実施できたか。	体育祭での実行委員によるクラス旗づくりや、放送委員による清掃時校内放送の実施等の新たな取り組みが行われた。		部活動や委員会の活性化が、顧問にゆだねられており、特別活動部としてそれらを支える仕組みづくりが必要である。
		③地域・関連機関との連携 ※学校経営方針　３－（４）ア「地域との協働による生徒の学びの充実」	③地域の社会福祉施設や行政機関、教育関連団体等の関連諸機関との連携をはかることができたか。	小山市国際政策課の出前講座の実施や、JICA筑波の施設見学並びに高校生国際協力実体験プログラムへの参加		小山市議会の議会報告会の際に、地元の自治会との連携の可能性を示していただいたので、結びつきを強めたい。

令和６年度教員による学校評価　評価法(達成度):5段階方式　A:十分達成(100%)　B:概ね達成(80%程度)　C:変化の兆し(50%前後)　D:まだ不十分(30%前後)　E:目標・方策の見直し(20%以下)						
	努力目標/目標設定の理由	**評価項目**	**評価基準**	**実績**	**評価**	**来年度の改善点**
スポーツ科	**努力目標** スポーツ文化の発展に貢献できる人材を育成する。 **目標設定の理由** 専門的な知識と高度な運動技能の習得により、次代のスポーツ人の育成に重点を置く。	①スポーツ活動を通して、基本的な生活習慣を身につけ、高い人間力を養う。	①礼儀やマナー、時間を守ること、集団の中で周囲に配慮したスポーツ活動や学校生活が送れるように指導できたか。	基本的な生活習慣を身につけ、スポーツ活動を通して人間力を高めた生徒が多かった。	**B**	一部に基本的な生活習慣が乱れ、スポーツ活動をおろそかにし、人間力を高められなかった生徒がいたので、全生徒に指導を行き渡らせたい。
		②生涯を通じてスポーツに関りを持ち、社会に貢献する態度を養う。	②競技スポーツの目的である競技力の向上を目指すだけでなく、スポーツを自ら楽しんだり、その楽しさを他者と共有できるようなスポーツ人になるように指導できたか。	自分の専門の競技だけでなく、他の競技やレクレーション的なスポーツを愛好する生徒が増えてきた。生涯スポーツへつながっていく手ごたえを感じた。		引き続き幅広い競技種目を取り扱っていく。また、授業の中で生涯スポーツについての探究を多く取り入れていく。
		③スポーツ活動を通して、忍耐力や困難に打ち勝つ力を養う。	③失敗したり、困難なことがあった時に、自分自身と向き合いながら粘り強く乗り越えていくように指導できたか。	忍耐力や困難に打ち勝つ力を養えた生徒も多くいたが、まだ不十分な生徒も見られる。		失敗を自分以外のせいにしたり、うまくいかない時にすぐに諦める生徒については粘り強く指導していく。
		④スポーツのあらゆる場面で事故防止に努め、自身と仲間の安全に配慮して取り組む態度を養う。	④授業や部活動において危機管理意識を涵養できたか。	２・３年生は意識が高くなってきたが、１年生はふざけあいが多くみられ、危機管理意識が高まらなかったように感じる。		何においても優先すべきは安全なので、危機管理意識をしっかりと植え付けたい。授業中のふざけについては厳しく指導していく。